

令和6年度 笠間市教育委員会外部評価報告書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことになっています。

令和5年度に教育委員会が行った主要な8事業の外部評価を行いましたので、評価結果について、次のとおり報告します。

(1) 外部評価委員会

開催日 令和6年10月24日(木)

場 所 笠間市役所/教育棟 2階 2-2会議室

(2) 点検・評価事業一覧及び評価結果

No	事務事業名	担当部署	評価結果
1	図書館サービス事業 電子図書館運営事業	図書館	改善し、継続
2	公民館講座運営事業	公民館	改善し、継続
3	生活困窮者学習支援事業	生涯学習課	改善し、継続
4	大日堂保存活用事業	生涯学習課 文化振興室	改善し、継続
5	スポーツ奨励金事業	生涯学習課 スポーツ振興室	現行どおり継続
6	英語教育強化推進事業	学務課	改善し、継続
7	教育支援室事業	学務課	現行どおり継続
8	学校給食費負担軽減事業	学務課 おいしい給食推進室	現行どおり継続

(3) 改善評価となった事務事業に対する意見及び対応

意見	対応
図書館サービス事業	
年代別、特に子育て中の利用者（率）も大事であるかと思っています。そこを考えるとイベント企画なども大事になってくるのでは。	子育て世代へのサービスを重点課題として、今年度は大人向け・児童向けイベントのほかに、特に乳幼児向けのイベントを企画し実施してまいりました。今後も子育て世代へのサービスの充実に努めてまいります。
地域の図書館としての独自の役割の充実と、職員やボランティアのさらなるスキルアップのための方策を期待したい。	地域の歴史や産業などに関連する資料を収集・整理し提供することは、図書館の役割であり今後も継続して進めてまいります。子どもの読書活動推進のために、職員や関係ボランティア対象の研修会を行い、それぞれのスキルアップにつながるよう継続して努めてまいります。
ネット販売にない、図書館ならではの特色を探って、住み分けすることで効率的に事業が進められるのではないのでしょうか。	実用や娯楽、知識・教養など、さまざまな分野の図書を広く収集し提供できるように、今後も選書してまいります。また特集展示や企画などを行い、蔵書が活用されるよう努めてまいります。
公民館講座運営事業	
各館のデジタル機器の配備・設置状況はいかがでしょうか。水戸市の場合、プロジェクター等がなく、講座室を借りても個人で用意ということになり、かなり不便さを感じております。	プロジェクター等のデジタル機器につきましては、3館ともに保有しており団体への貸出を行っております。また、WiFi など通信環境も整っております。
今後は、公民館の独自性（オンデマンド学習媒体との差別化）を意識した講座に限らない取り組みを求めたい。	新型コロナ禍からの回復により対面型講座の良さを十分生かせるような講座の開催を進めてまいります。
R5 は対面講座を考えてオンライン講座規模を少なくされたとのことですが、R5 においては対面減オンライン増となっています。一部参加する側とのニーズ（手法）が逆になっているかと感じました。	オンライン講座の視聴回数は増となり、対面式講座の受講者数が減となりましたが、新型コロナ禍からの回復を機に対面型講座の良さを生かし、講座の充実を図り受講者の増加につなげてまいります。
生活困窮者学習支援事業	
教育を受ける機会均等化、だれ一人取り残さない方向で、継続を。	参加生徒一人ひとりに寄り添った支援をするために、生徒や保護者の要望に応じた学習支援の継続、居場所としての教育相談の充実、きめ細かい進路指導等とおして、受講生の学びの充実とより良い環境づくりに努めてまいります。
オンラインでの参加を可能にすると人数も増えるのではないかと。	オンライン形式の方が受講しやすいという意見があることを踏まえて、令和7年度事業募集に合わせ、対象家庭へアンケート調査等を行います。結果を分析し、事業改善のための検討を進めてまいります。
大日堂保存活用事業	
貴重な文化財を周遊できるようなデジタルコンテンツ（外国語も含め）を検討されていますか。この視聴回数も数値として有用だと思います。	大日堂近隣にある楞嚴寺山門や木造千手観音立像、久野陶園、笠間焼発祥に係わる登窯などは、ナレーション付き解説動画を公開しており、今後、大日堂のデジタルコンテンツ制作について検討してまいります。
作品を所蔵している他の館との連携が知名度UPには大切です。	茨城県近代美術館の学芸員に講師を務めていただき、講座を適宜開催しているところです。また、天心記念五浦美術館には、定期的に大日堂パンフレットを送付し、PRに協力をいただいております。

大日堂の保存と広めることどちらを行う事業なのか明確に整理が必要かと思います。	公開を優先して大日堂の壁画や天井画の保存状態を疎かにしてしまうと美術品としての価値を損なうことになります。一方で、木村武山という偉大な日本画家の作品にふれる機会を提供することで、木村武山の功績などの次世代への継承に寄与するものと考えております。こうした積み上げが市民の郷土愛の醸成に、対外的には芸術文化レベルの高い街との評価につながるものと考えております。文化財は、保存、公開のいずれかではなく、文字どおり地域の宝と認識しておりますので、その価値保存を前提に、公開活用を進めてまいります。
英語教育強化推進事業	
ハワイ大学研修（茨城キリスト教大学で行っているもの）へ教師を派遣してはいかがでしょうか。テソル（TESOL。英語を母国語としない生徒に英語を教えるための教授法のこと。）の権威です。	茨城県事業として平成 26 年から 5 年間、中学校より 14 名、高校より 7 名が毎年ハワイ大学へ派遣されました。研修受講後は各地域において伝達講習を行う研修が行われ、市内にも伝達研修受講者がいます。外部に委託した英語教員研修の効果も含めて検討してまいります。
会場・費用・人材の関係があり、イベントの拡大は難しいかもしれませんが、応募してきたやる気のある子みんなを受講させる方法を探してほしい。（回数を増やせるか）	会場の広さによって収容人数が決まっていますが、広めの部屋を予約するなど全員が受講できる環境の確保やプログラムの提供を検討してまいります。
英語に触れる機会を行政の補助で近くに感じられるシステムは親としても助かるが、この取り組み+αを考えてもらえたら。きっかけづくりにはなっているが、発信する力を向上するところまでの取り組みには足りていない部分もあるのかと感じる。	児童生徒の授業中の言語活動が 1 授業時間の半分以上になるように、即興でのプレゼンテーションや、やりとりを継続していくなど発信力向上に向けた視点での授業改善を図ります。